

そして ベートーヴェンがやってきた!!

ベートーヴェン没後200年記念

MORGAUA QUARTET

中期弦楽四重奏曲ツィクルス Vol.1

モルゴーア・クアルテット

第58回定期演奏会

荒井英治

Eiji Arai

戸澤哲夫

Tetsuo Tozawa

小野富士

Onofuji

藤森亮一

Ryoichi Fujimori

2027年1月18日(月)

19:00開演(18:30開場)

浜離宮朝日ホール

指定席(限定34席) 4,500円

一般(自由席) 4,000円

学生(自由席) 2,000円

※指定席はミリオンチケットのみで取り扱い

ベートーヴェン

弦楽四重奏曲 第7番 ヘ長調 作品59-1

《ラズモフスキー第1番》

弦楽四重奏曲 第8番 木短調 作品59-2

《ラズモフスキー第2番》

チケット販売 朝日ホール・チケットセンター 03-3267-9990 e+イープラス <https://eplus.jp>

ローソンチケット <https://l-tike.com/> Teket(電子チケット) <https://teket.jp/g/qbo7gi5iqv>

ミリオンチケット 03-3501-5638 ※ウェブサイトからの申し込みはセブンイレブンでのお引き取り

コンサートマネジメント

ミリオンコンサート協会 03-3501-5638

その名は我々を奮い立たせる。
その名は我々を深い平穩に導く。
その名は常に我々の傍らに在り続ける。

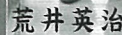
音の意味を変えた。
音の価値を変えた。

音楽を享受することはその時点で終わってはならない。
自らの裡に思いを沈めることだ。現実からの束の間の逃避に堕してしまう
ことは彼の怒りを買うにちがいないだろう。

弦楽四重奏曲作品59、作品74、作品95はそれぞれ強烈な磁場を形成している。そこに於いて、音が個人的な感情を超えて崇高な響きを湛えているとすれば、思想家ベートーヴェンが見据える『理想』がそこにあるのではないだろうか？

そして、演奏者の存在が音の建造とともにその背後に隠れてしまった刹那にベートーヴェンは姿を現すのに違いない。

荒井英治

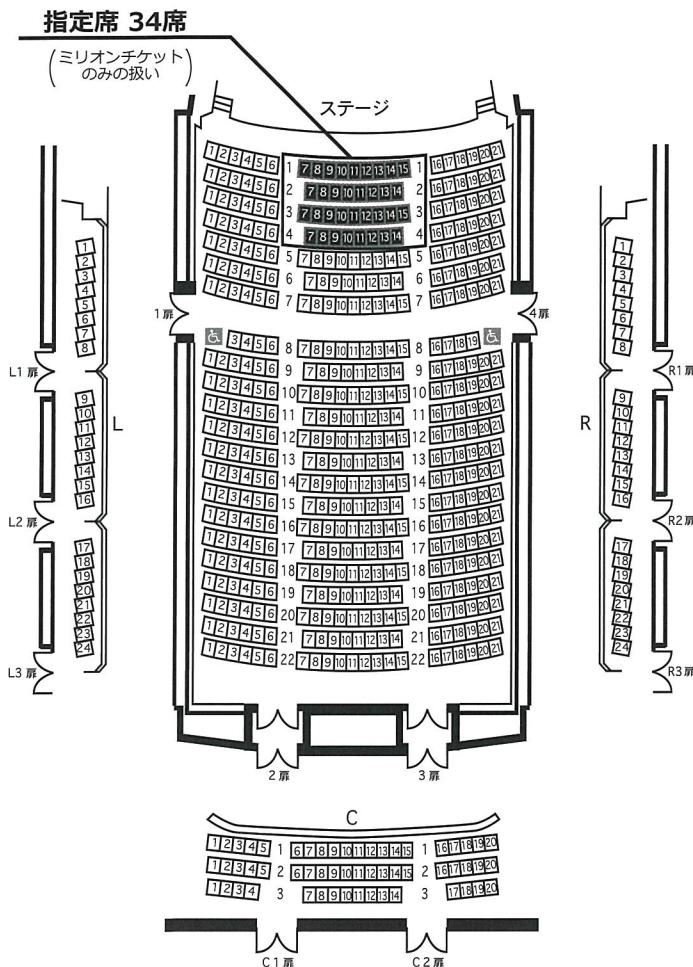


户澤哲夫

小野富士

藤森亮一

©Norikatsu Aida



モルゴーア・クアルテット(Morgaua Quartet)は、ショスタコーヴィチの残した15曲の弦楽四重奏曲を演奏するため1992年秋に結成された弦楽四重奏団。

2001年1月の第14回定期演奏会でショスタコーヴィチの残した弦楽四重奏曲全15曲を完奏。

シヨスタコーヴィチ没後40年(2015)から生誕110年(2016)をつなぐ「シヨスタコーヴィチ弦楽四重奏曲全15曲演奏会」を2015年大晦日から16年元旦にかけて「横浜みなとみらいいホール」で開催。瞠目のプログラムで多くの聴衆を集めた。

2023年から24年にかけて「演奏活動30周年演奏会」をオール・シヨスタコーヴィチ、オール・ロック、過去53回の定期演奏会プログラムから再演希望曲をアンケートし、そのリクエストに沿った演奏会を2回行い話題を呼んだ。

2012年から17年に日本コロムビアからリリースした、荒井英治編曲のプログレッシヴ・ロック・アルバム《21世紀の精神正常者たち》《原子心母の危機》《トリビュートロジー》により、ボーダーレスな弦楽四重奏団としても高い評価を受ける。

2017年9月「第47回JXTG音楽賞洋楽部門 本賞」、2018年6月「第28回みんゆう県民大賞 芸術文化賞」などを受賞する。